（別紙4）　平成　24年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2790200014		
法人名	社会福祉法人　気づき福祉会		
事業所名	グループホーム　野田いやし園		
所在地	大阪市福島区野田5丁目１５－２０		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町村受理日	平成25年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　親和ビル4階
訪問調査日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営方針の「わが家のように気ままにのんびり」は、一人ひとりの個性の持った入居者が少しでも気ままにのんびりと暮すことができるホームを目指しています。
ホームの特徴は、介護職員の半数が介護福祉士の資格を取得しており、また、常勤の看護師を配置しております。援助内容で力を入れている点は、①入居者と職員で昼食の買い物に毎日出かけ献立を考えます。入居者が外出したい時に外出の同行を行い玄関は日中開錠しています。運営推進会議は約半数の家族が参加されサービスに対する要望を積極的に聞き改善に努めています。開所して3年が経過し今年度は看取りの指針に沿った研修に取り組み、入居者が住み慣れた野田いやし園で最期まで生ききる事ができるように職員のスキルアップを図っています。地域との交流も少しずつ増えており、3ヶ月に1回広報誌を発行し地域に配っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設されてまだ3年余の若いホームである。「我が家のように気ままにのんびり」の運営の基本理念通り、それを実践されている。例えば、車が1台も無いので理由を聞くと、近場へ出かけるには利用者にはなるべく歩いて頂く、外出レクのため遠方へ行くのには、公共の交通機関を利用して頂くとのこと、過去自宅でもその様にしておられたはずとのことである。モニタリングシートも当ホームで独自に考案され、従来の〇△×方式でなく、担当職員が利用者に寄り添ってきめ細かく文章でモニタリングされている。法人の方針でもある「自立支援」をまず第1に考え、それに基づいたケアがなされている。家族の協力を得て1泊旅行をされたり、食事や入浴等の生活援助にもそれが感じられる。更に、「地域に開かれたホーム」となるよう努力されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		〇	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		〇	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		〇	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		〇	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		〇	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		〇	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		〇	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針の「わが家のように気ままにのんびり」を実践するために、各会議で理念を共有し日々取り組んでいる。	当ホーム独自の基本理念として「我が家のように気ままにのんびり」と定め、パンフレットにも明記し、運営推進会議(藤いやしの会)でも出席者全員に理解を求めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のだんじり、隣町の北御堂盆踊りに参加。小学校との交流を図り、毎週水曜日には下校の見守り活動を入居者・職員で実施している。入居者・家族・地域合同で地域巡りを実施。地域との交流を図っている。	地域のイベント(だんじり祭り、北御堂盆踊り等)に参加したり、地域住民のために認知症勉強会を開催している。道路を挟んで真向かいに小学校があり、一斉下校時の見守りをし、地域との交流に励んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域との交流や外出を毎日行い、入居者を知ってもらう事で認知症の人の理解をしてもらうように取り組んでいる。昨年度、地域向けの認知症勉強会を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日常の活動報告を行い、その評価やご意見を参考にサービス向上に向けて努力している。	開催日を奇数月、偶数月に係らず最終土曜日とし、ホームのイベント(一品持ち寄り忘年会、施設外での新年会他)終了後に年6回開催している。地域包括支援センターや町会長に出席して貰い、双方向の意見交換会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福島区介護ホーム連絡会に参加し行政との連絡調整やサービスの質について意見交換を図っている。事故等は迅速に報告し再発防止にむけて協力してもらうようにしている。	福島区介護ホーム連絡会には、行政から区担当者や地域包括支援センター職員が参加し、お互いの施設状況や空き部屋情報を交換しつつ、色々な相談にのって貰ったり、情報を得たりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室ベランダ及び玄関は日中施錠を行わず、身体拘束のないケアに努めている。現在、身体拘束は行われていない。	玄関は日中は施錠せず、外出を希望する利用者がおれば職員が対応している。1階と2階の行き来も自由である。身体拘束のみならず言葉の拘束もしないケアを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今後、高齢者虐待について、ホームで虐待が起こらないように全員で話し合い防止に努める。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施はできていないが、11月に外部研修を受講し理解を深めたい。現在成年後見制度を活用している入居者との関わりを通じて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、時間をかけて解りやすい説明を行うことを努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平素より入居者や家族が気軽に意見・要望・相談ができるように努め、頂いた意見を反映させている。運営推進会議や行事等の機会に聞く機会を設けている。	利用者からは、リラックスされている時に何気ない会話から、思いや希望を引き出す努力をしている。家族からは、来訪時に何でも言い易い雰囲気を作ったり、運営推進会議でもよく発言される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月１回職員会議を実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映するように努めている。	サービスの質の向上のためには不可欠なプロセスであることは充分理解している。そのため、毎月の職員会議で発言して貰ったり、年2回の管理者による個別面談で聞き出す工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度及びキャリアパスを導入し、向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのため、法人内研修や外部研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワーク・福島区介護ホーム連絡会に参加し、互いにサービスの向上させていけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には本人との面談を行っている。自宅での生活が可能な限りホームでもできるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に家族と面談を行い、悩みや要望を聞き出せるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活上必要とする支援内容の整理及び初期対応の見極めを行い、職員で協議し介護計画を立案している。また、他のサービス利用も視野に入れながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームを第2のわが家と思って頂ける対応に努め、共に過ごし支え合う関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者をホームと家族で一緒に支える事を大切にしている。入居者の日常の様子を面会時に伝える。いつでも家族と外出できるように配慮したり、家族が入居者の受診の際、職員が同行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所をアセスメントし職員で共有、介護計画に反映し関係が継続できるよう支援に努めている。	現在の生活レベルを維持させるべく、馴染みの友人・知人との面会を支援している。年賀状を送るお手伝いもしている。馴染みの場所としては、住んでおられた家やお店、理容室があり、お連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲立ちし入居者同士が関わりを持てるように工夫している。仲間作りの外食や旅行、居室の座席の配慮をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	途中退所者はないが、関わった家族や関係機関との連携を大切にするように努めている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人に思いや生活の意向を聞き取り介護計画の作成にあたり、カンファレンスやサービス担当者会議を実施し希望や意向の把握に努めている。	利用(予定)者との最初の面談は必ず自宅を訪問し、今までの生活環境を把握し、これからの暮らし方の希望を聞き、フェースシートにまとめている。入居後も、モニタリングシートを作成し、現状で満足しているかどうかを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時及び入居後も介護計画を通じて、生活歴当の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の暮らしを観察し、その人らしい暮らしになるように把握、新しい発見があった時には記録し全職員が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族及び必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。モニタリングは担当スタッフと計画作成担当者にて行っている。介護計画原案はカンファレンスで話し合いチームで作成するよう努めている。	管理者やケアマネージャー、本人や家族も参加してサービス担当者会議を開き、最終的に本人本位のケアプランを作成している。ホームで作成したモニタリングシートを使い、毎月1度はケアプランの進捗度を文章化し、ケアプランの変更性の有無に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に生活の状況や受診等、些細な変化を細かく記載するように努め、情報共有や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的、急な通院や個別外出、そして住環境等、入居者や家族の希望に応じ柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関や地域包括支援センター、地域のコミュニティー等と連携を図り、安全で豊かな暮らしができるように援助している。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の内科医が月に1回訪問診療する。また、定期的なかかりつけ医への受診に職員が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。	内科は入居時に説明し納得してもらって、訪問医に変更している。往診も24時間対応で利用者の健康状態把握に役立っている。他科は家族の送迎付き添いが基本だが、情報共有のために職員が同行することも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は必要な医療情報を介護職員に伝達、医療面の相談・指導を行っている。また、オンコール体制を取り、適切な受診や看護を受けられるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族が希望する医療機関を聞いている。入院時は介護職員・看護師が面会し連携を図るように努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って、かかりつけ医の協力のもと看取りの体制を取っている。現在、看取りの指針に沿って研修を開始している。	文章化した指針あり、入所時に説明、同意をとっている。まだ、見取り介護のケースはないが職員に対して研修を開始するなど体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について施設内研修を実施。事故発生時の対応マニュアルを整備し迅速な対応ができるよう備えている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害計画に基づき、日中及び夜間想定の避難訓練を年に2回実施している。消防署にも立ち会ってもらい初期消火訓練を実施。	火災だけでなく、津波被害想定訓練も行なった。運営推進会議を通して、地元の協力要請もしている。	食堂の高いところに荷物が積み上げられていたり、個室その他スペースにも、ものが多くあり、非常時の避難の際の障害になる心配がある。環境整備を避難路確保の面から検討いただく事が望ましい

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保ができるよう言葉使いに注意している。	「家族がいる場所でできないことはしない」を基本に尊厳を守るように心がけている。職員間で不適当な態度や言葉遣いが見られたときには、相手によって直接注意し合うことが出来る時とできない時があるとのことである。	職員は常勤、非常勤あるいは新人、ベテランの区別なく同じ仕事をしている。職員同士お互いに注意しあえる良好なチームワークが構築されることを望む。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから要望を聞きながら入居者の思いや希望が引き出せるような関わりを心がけている。生活の場面で自己決定ができるような働きかけにも工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、主体は入居者であり、入居者の日課に合わせて職員の予定を考えるように努めている。会議の場で話し合いの機会を設けて職員で合意のもと徹底を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物の同行援助を実施し、入居者の好みを尊重した援助を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は午前中に入居者と買い物に出かけてメニューを決める。時には、外食に行ったり出前をとったりと柔軟な対応を行う。入居者と一緒に準備から片付けまでしている。	「利用者、職員が一緒に作って一緒に食べる」グループホームの基本が守られている。一緒に囲む食卓では、食材や調理法について会話が交わされ、たのしい雰囲気であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態や生活習慣に沿った食事内容を考え、できる限り自力摂取できるように援助している。水分摂取量の少ない方は特に注意して観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院と連携を図り、口腔指導を受けケアに活かしている。施設内研修を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護計画を立案し、習慣を活かしてトイレで排泄ができるように取り組んでいる。	定時誘導に結びつく危険から排尿チエック表はつけていない、失禁が多いケースの対応をカンファレンスし、外を歩くことによって下肢筋力をつけ、リハパン使用の時期を遅らせようとするなど、トイレでの排泄に真剣に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫及び、便秘の方はできる限り毎日散歩に出かけるよう介護計画を立案し実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を決めずに入居者の希望やタイミングに合わせて支援しているが、なかなか入浴されない方もいる。入浴できない場合は足浴等の対応をしている。	希望に応じて、毎日、一日おき、2日おきと自由に入浴できる。拒否する方には、入りやすい朝一番にしてもらったり、いよいよ、嫌がるときには、清潔が保たれる範囲で1週間くらいそのまま様子を見るなど、利用者本位が貫かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて安眠・休息できるように援助するために朝・夕食時間は柔軟に対応している。日中できる限り活動的に生活してもらう工夫は必要である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より薬の内容・副作用等周知を図っている。服薬の支援の症状の変化を把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画に役割や楽しみを入れている。家事や掃除、散歩等様々な役割・楽しみごとを提供できるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって近隣への散歩、自転車での外出、日帰り・一泊旅行を実施している。家族の協力も頂いている。	買い物、通院、散歩と外出の機会は多い。車は原則使わず、歩きと電車利用である。北御堂の盆踊りに参加したり、地元のななとこまいり、床屋、美容院といろいろなところに出かけている。1泊旅行は淡路島に行ってきた、次回予定も計画中である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、入居者がお金を持つ事の大切さを理解し、入居者に合わせて自己管理してもらったり、家族から預かったお金を外出時に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用してもらっている。また、受信した際は入居者に取り次いでいる。年賀状や手紙等、必要時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりが落ち着ける空間となるように対応している。リビングや居室に季節の花を飾ったり工夫している。	元々、社員寮を改装しているので、使いにくいところもあるようだが、心地よく暮らせるように知恵と工夫で上手に対応している。食堂兼居間、廊下が狭い。	構造上仕方がないことかもしれないが、整理整頓、備品の工夫などでもう少し広く使えるよう、また季節感が感じられる工夫も期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同様であるが、改善の必要がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの備品を持ちこんでもらうよう家族に働きかけている。ベッドや畳等、居心地の良い居室となるよう配慮している。	立ち上がり機能の低下防止のため、畳や絨毯の上で布団で寝ている方が多い。まさに「我が家のように」を感じさせる。利用者手描きの表札がその人らしくてよい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かした安全な環境を整えるよう工夫している。昨年度は手すりの増設を行っている。今年度は玄関を改善する。		